

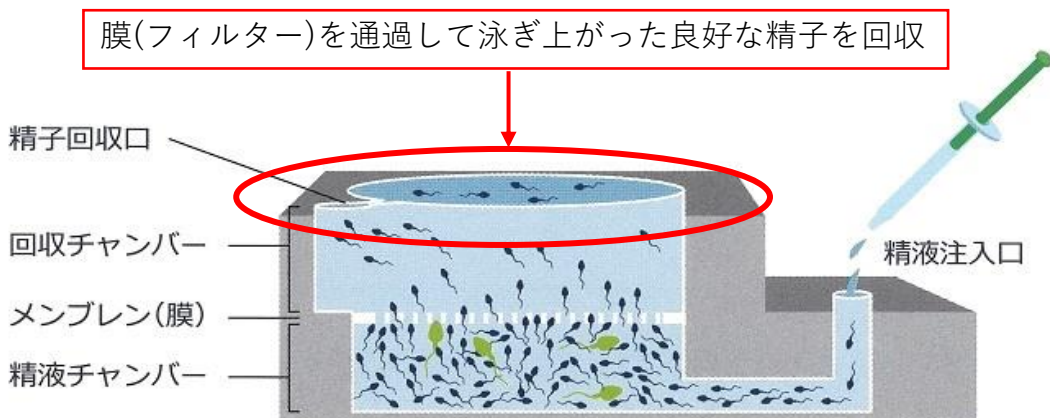
# 膜構造を用いた 生理学的精子選択術

## 特殊な膜構造を用いて、成熟精子の選択を行う技術です

当院では通常、遠心分離によって成熟した精子を回収する密度勾配遠心法という方法で精液調整を行っていますが、この方法は遠心による物理的ダメージや長時間活性酸素にさらされることにより精子のDNA損傷（断片化）が起りやすいといわれています。近年、この精子DNAの断片化が胚の発育不良や流産の原因の一つと考えられています。

膜構造を用いた生理学的精子選択術は、**ZyMöt(ザイモート)スpermセパレーター**を使用し、特殊な膜(フィルター)と精子の運動性を利用して運動性の高い機能的な精子を回収する方法です。

遠心分離を行わないので精子DNA断片化を防ぐことができ、顕微授精における胚発育や妊娠率の向上、流産率の低下が期待されます。



ZyMöt spermセパレーター（拡大断面図）

## 対象

顕微授精で移植可能胚が得られなかった、または胚移植で妊娠に至らなかった患者様

※従来の遠心法よりも精子調整後の精子回収量がかなり少なくなるため、顕微授精での実施となります。  
採卵当日の原精液の状態によってはZyMötの使用ができないことがあります。凍結精子は対象外です